



南三小

教 育 目 標

よく考える子ども
心も体もたくましい子ども
仲良く助けあう子ども

9月号

町田市立南第三小学校
令和 8年 9月 1日
校長 工藤 成

URL <https://www11.schoolweb.ne.jp/swas/index.php?id=1310182>

2学期のスタートに寄せて ～言葉の力～

校長 工藤 成

このたびの熊本地震並びに千葉豪雨、北陸の大雨で被災された皆様と、そのご家族に心よりお見舞い申し上げます。一日も早く平穏な日々を取り戻せるようお祈りいたします。

さて、長い夏休みが明け、いよいよ2学期が始まります。教室や校庭に子供たちの元気な声と笑顔が戻ってくることを、とても嬉しく思います。

ところで、今夏もテレビで黒柳 徹子さんをよく見掛けました。それもそのはず「徹子の部屋」は50周年の節目を迎え“同一司会者によるトーク番組の最多放送”のギネス世界記録に認定されている長寿番組。ちなみに“最も多く発行された単一著者による自叙伝”である「窓ぎわのトットちゃん」も世界記録です。その黒柳さんが若い頃、劇団の先輩から「日本語がヘン！」と怒鳴られ、役を降ろされ続けて深く落ち込んでいた時のことです。そんな彼女に、劇団の飯沢先生は、眼鏡の奥の目を細めてニコニコしながらこう言ってくれました。「直しちゃ、いけません。あなたの、そのしゃべり方がいいんです。ちっともヘンじゃありませんよ。いいですか、直すんじゃありませんよ。そのままいてください。それがあなたの個性で、それが僕たちに必要なんです。だいじょうぶです！心配しないで」と。それまで心の中がモヤモヤした雲におおわれていた黒柳さんは、この言葉を聞いて、心の中の空がパーッと晴れていくような感じがしたそうです。初めて自分の個性を必要としてくれる人に出会えたことで、黒柳さんはNHKに残ることができました。もしこの時に飯沢先生に出会わなかったら、今の彼女の活躍はなかったかもしれません。（「続・窓ぎわのトットちゃん」より）時が経ち、ユニセフ親善大使となった黒柳さんは2009年にネパールを訪問しました。そこで、川底の石を拾って売って生計を立てる少女に出会います。黒柳さんは彼女から石を購入した上で、「大きくなったら何になりたいの？」と問い掛けました。少女が「私は洋服屋さんになりたい」と答えると、黒柳さんは「じゃあ私に洋服を作って。早くしないと死んじゃうからね」と言って別れたのです。それから7年後、22歳となった彼女と黒柳さんはネパールで再会を果たします。彼女はお金を貯めてミシンを購入し、黒柳さんのためにブラウスを作って待っていました。彼女は嬉しそうにこう語ったそうです。『「大きくなったら何になりたいの？」と聞いてくれた大人は、あなた以外に誰もいませんでした。だから私は洋服屋になるために一生懸命に働いたんです」と。



飯沢先生の言葉が黒柳さんのありのままの個性を肯定し、その後の活躍を支えたように、黒柳さんの言葉がネパールの少女の夢を実現へと導いたように、言葉には力があります。前に進める力があります。大きく変える力があります。また、たった一人の大人の理解ある行動が子供に自信を与え、挑戦心を育みます。そして可能性の芽を急速に伸ばします。相手を思う真剣な一言が子供の夢を育み、開花させていく転機となります。2学期も保護者・地域の方々と一緒になって、子供たちの豊かな成長を支える教育活動を展開してまいります。引き続き、ご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。